

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社おいらーく	代表者	星野 二三江	法人・事業所の特徴	法人グループ内では病院を中心として医療・介護事業所を複数運営している。法人内にとどまらず、外部機関や事業所との連携に努め、「通い」「訪問」「泊り」の柔軟な組み合わせを意識しながら、住み慣れた自宅での生活を安心して送れるように、ご家族や地域の方の協力を得ながら支援を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 えくぼ サテライトえくぼ	管理者	佐々木 浩二		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	2人	1人	人	人	1人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	感染者数が減少している時には会議の開催、又令和5年5月以降は5類に変更されるため、会議体も通常通り開催出来るよう努めていきたい。	今期はコロナ禍以前の体制で会議を開催する事ができた。事業所評価についてはサービス向上委員会も絡めつつ実施した。	事業所自己評価の取組みが全員で行われ意見が反映されているかはわからない。	今期同様定期的な会議は継続し、事業所評価についてはサービス向上委員会と連携し取り組んでいきたい。取り組み内容は運営推進会議で報告していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	面会や来訪も以前より増えてきており感染対策を継続しつつ入りやすい空間作り(季節物を取り入れる等…)を行いたい。	面会の制限を解除した事でご家族の来訪が増えた。感染対策は継続しつつ職員間で担当制とし環境づくり(装飾等)を行ってきた。	装飾など季節に応じたものとなっていた。	来訪者が増えた事で改めて事業所内の環境を整え居心地の良い空間作りをしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	令和5年2月より運営推進会議を再開。地域からの意見や情報も直接聞くことが出来るようになると思われる。	運営推進会議では事業所側からの報告が中心となり地域の声を聴く機会が少なかった。	町内では地域の方に知られているかわからない。相談しやすい事業所になっている。	運営推進会議では事業所からの報告だけではなく、地域の相談役となり相談しやすい事業所作りを行っていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	令和5年5月よりコロナは5類に変更になると思われるので地域行事など開催されれば参加していきたい。	コロナが5類に移行したことにより地域の行事にも参加できるようになってきた。	事業所として地域との交流が印象…。関わりも不透明な部分がある。	昨年同様町内行事には参加させていただき、報告も運営推進会議内で行っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	令和5年2月からは運営推進会議を再開しており地域からの意見も取り入れて運営に活かしていきたい。	運営推進会議では事業所側からの報告が中心となり地域の声を聴く機会が少なかった。	運営推進会議では事業所の取組みが報告されどのような活動を行っているかわかった。事例検討は行われていなかった。	来期は参加いただいた方々の意見も取り入れつつ運営していく。
F. 事業所の防災・災害対策	まずは事業所間での災害時の対応、対策を整えていきたい。	避難訓練は行ったが、定期的な振り返りは行えていない。備蓄管理は実施。	避難訓練等には参加した事がなく防災計画なども認知出来ない。	利用者様は勿論、地域の避難場所としても認知されるよう発信していく。